

# 母親は4日間生きていた。ジャングルを生き延びた4人の子ども一人が明かす【コロンビア飛行機墜落事故】

6/12(月) 12:00 配信 67 🗨️ 😊 😌 😐 😞 🐦 📘

**HUFFPOST**  
IN ASSOCIATION WITH The Asahi Shimbun



コロンビアの熱帯雨林に墜落した飛行機 (2023年5月18日)

救出された子どもたち (2023年6月9日) こちらもおすすめ>>ジャングルに墜落した飛行機、4人の子ども達が生き延びる。40日ぶりの発見で「国中にとっての喜びだ!」とコロンビア大統領

## 【画像】ジャングルで救出された子どもたち

コロンビアの熱帯雨林アマゾンで飛行機事故に遭い、40日間生き延びた4人の子どものうちの一人が、母親が4日間生きていたと話していることがわかった。

ジャングルで生き延びたのは13歳、9歳、4歳、1歳の子どもたちだ。飛行機には4人と彼らの母親を含む7人が乗っていたが、エンジンの故障で5月1日にアマゾンに墜落した。

事故後、母親を含む3人の大人の遺体が発見されたものの、4人の子どもたちが見つからず、捜索が続いていた。そして、1カ月以上にも渡る捜索の結果、子どもたちは約40日後の6月9日に、事故現場から約5km離れた地点で救出され、病院に運ばれた。

AP通信によると、子どもたちの父親のマヌエル・ラノケさんは11日、「4人のうち最年長の13歳の子どもが、飛行機が墜落した後、母親は4日間生きていたと語った」と記者団に説明した。

ラノケさんによると、母親は死ぬ前に「ここを離れなさい」と子どもたちに伝えた。これは、生き残るためにどこかへ行くようにという意味だったと思われる。

子どもたちが入院している首都ボゴダの病院に到着した父親のマヌエル・ラノケさん (2023年6月11日) 自分たちだけになった子どもたちは、飛行機に積まれていたキャッサバの粉や果物を食べて生き延びたことがわかっている。

子どもたちは先住民族のウイトトで、果物の知識やジャングルで生き延びるためのスキルを備えていた。そのことが、4人の生存を助けたと考えられている。

捜索に加わった先住民族の一人は「子どもたちは、炭酸飲料のボトルを使って水を集めていた」と記者団に語った。この男性によると、子どもたちは救出後に空腹を訴えた。

4人の健康状態には問題がないものの、病院で少なくとも2週間は治療を受ける予定だという。